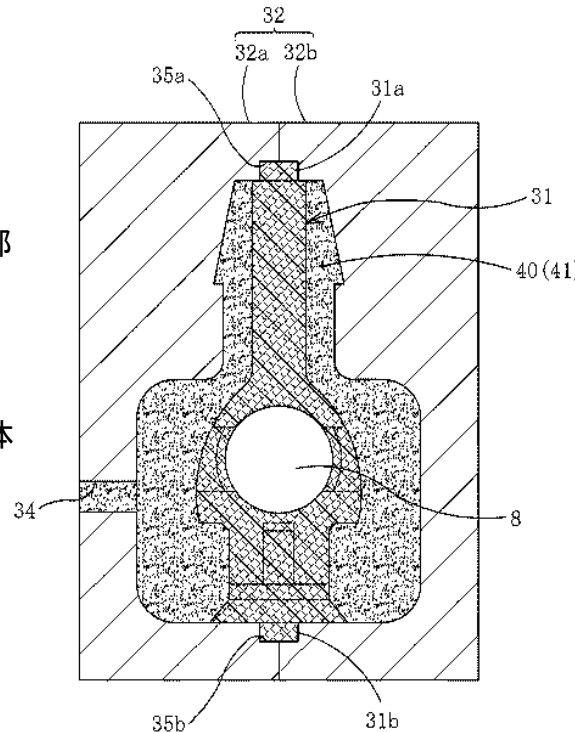


発明の名称	粉体焼結成形体の製造方法、流体素子の製造方法、粉体焼結成形体及び粉体焼結成形体製造用中子		
出願人/権利人	太盛工業株式会社	発明者	田中 茂雄、横田 智行
出願日	平成25年12月27日	出願番号	2013-272552
公開番号	2015-127433	特許番号	6403952
法的状態	登録中		

代表図



- 8 弁体(遊動部材)
- 31 中子
- 31a, 31b 位置決め凸部
- 32 焼結材料成形金型
- 32a, 32b 金型部材
- 34 充填口
- 35a, 35b 係合凹部
- 40(41) 焼結材料成形体

発明の概要

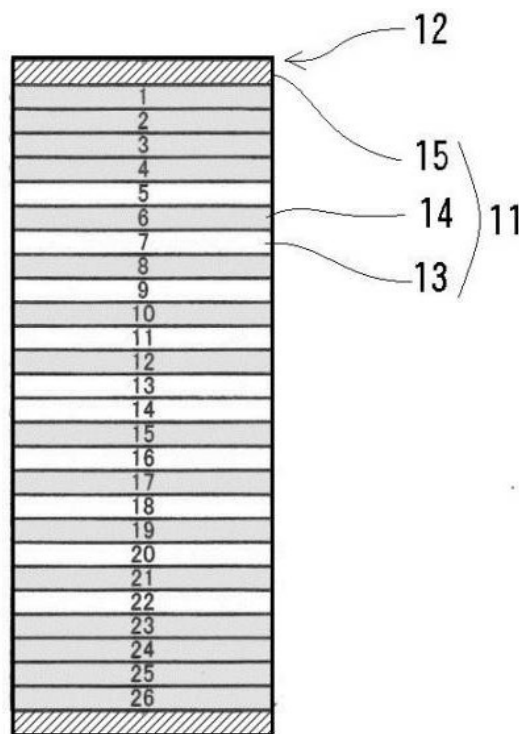
内部に遊動部材を備える粉体焼結成形体を一体的に製造する方法

特徴

従来の技術では部品を別々に形成するため、部品ごとの成分が異なると一体焼結する際に、接合部に段差や空孔等の欠陥が生じやすい。本発明の粉体焼結成形体の製造方法では、中空部に遊動可能に保持される遊動部材を備える粉体焼結成形体を一体的に成形し、一体的に脱脂・焼結することができる。遊動部材は、各工程において、溶融したり劣化したりしないため、製造工程を大幅に削減することができる。また、中空部を形成するために、後の工程において消失する中子が用いられる。中子樹脂成分は脱脂工程又は焼結工程において加熱されることにより除去される。

発明の名称	積層複合木質材及びその製造方法		
出願人/権利人	株式会社ユニウッドコーポレーション	発明者	横尾 國治
出願日	平成27年12月22日	出願番号	2015-250502
公開番号	2017-113947	特許番号	6407134
法的状態	登録中		

代表図



- 11 単板
- 12 積層複合木質材
- 13 柔質単板
- 14 中質単板
- 15 堅質単板

発明の概要

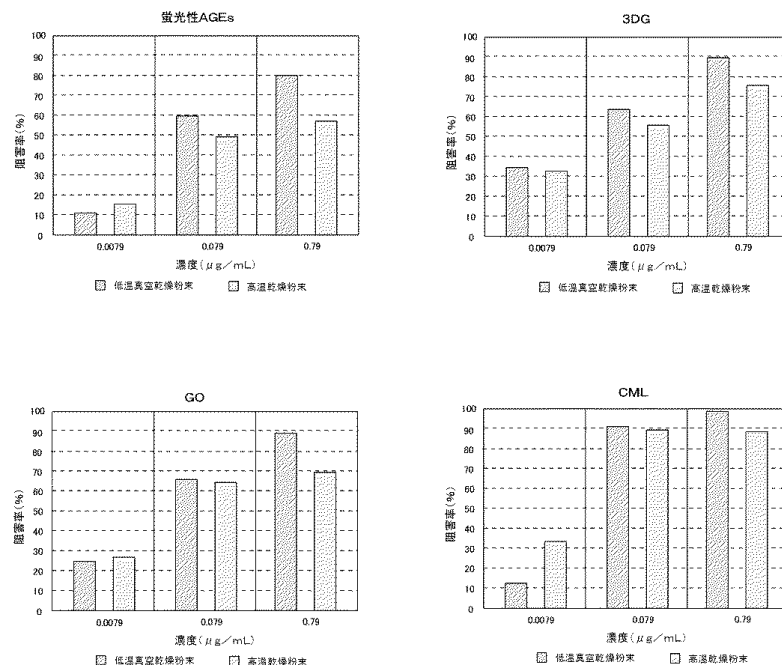
エンジニアードウッド製品供給を可能とする新たな積層複合木質材とその製造方法

特徴

従来のラワン材などの南方産広葉樹は環境変化で反り、捻じれなどが発生しやすい。本発明はエンジニアードウッド製品供給を可能とする新たな積層複合木質材とその製造方法である。エンジニアードウッドとは木材の小片などを接着剤で大きな材料に再構成したものであり、中質薄板材は積層複合木質材の積層中心から上下に略対称に配置する。中質薄板材は複数の樹種を混在させても特性が安定するため国内産の木材の他、輸入材を用いることができる。地球環境と原料産地に社会的な貢献をする国産材などを主原料として製造することが可能である。

発明の名称	蛋白質糖化反応阻害剤		
出願人/権利人	株式会社レーネ	発明者	井上 佳代子、佐藤 恭男、八木 雅之
出願日	平成28年5月27日	出願番号	2016-105996
公開番号	2017-210452	特許番号	6411403
法的状態	登録中		

代表図



蛋白質糖化反応阻害作用の測定結果

発明の概要

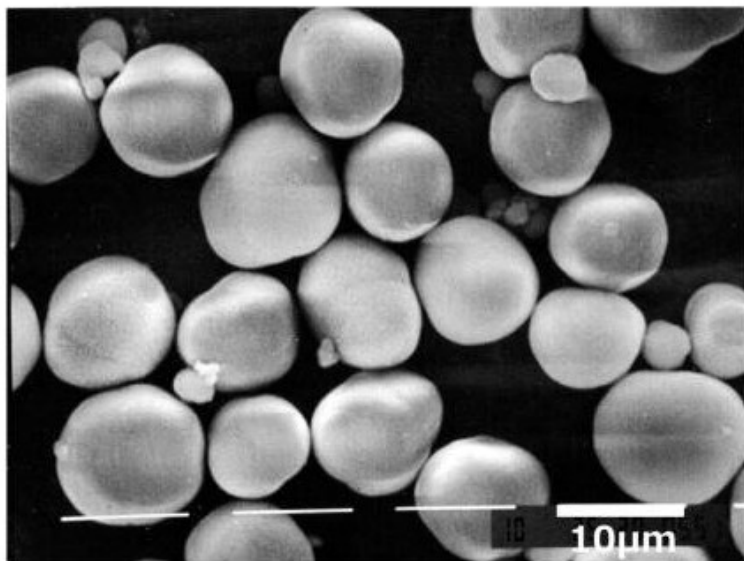
黒ガリンガル (*Kaempferia parviflora*) 抽出物を含有する蛋白質糖化反応阻害剤

特徴

蛋白質糖化反応とはアミノ酸と還元糖を加熱すると褐色の色素が生成する反応で、肌のくすみの原因となる。本発明は、生体に好ましくない影響を及ぼす蛋白質の糖化反応を阻害する蛋白質糖化反応阻害剤である。黒ガリンガルは乾燥及び粉末化し滋養強壮などの健康用途に日本でも使用されている。黒ガリンガルは蛋白質糖化反応を阻害し、糖化反応により形成された無秩序で余分な架橋を分解し、皮膚の硬化や骨の脆弱化などを回復させるために有効である。酸化蛋白質分解酵素の活性を増強する作用があるため、アルツハイマー病の原因であるアミロイドβを減少させる。

発明の名称	球状大粒子二酸化チタンの製造方法		
出願人/権利人	古河ケミカルズ株式会社	発明者	工藤 喜弘、上田 茂、川邊 芳一
出願日	平成29年3月17日	出願番号	2017-052798
公開番号	2018-154527	特許番号	-
法的状態	出願中		

代表図



二酸化チタンの粒子形状

発明の概要

シャープな粒度分布を有する球状大粒子二酸化チタンを短時間かつ簡便に高収率に得る技術

特徴

従来の方法で得られる二酸化チタン粒子は、表面の凹凸が大きく、粒度分布も広い。本発明では硫酸チタニル水溶液に、アルカリ金属と塩素からなる塩を存在させ、熱加水分解して含水酸化チタンを生成する工程と、含水酸化チタンを濾過し、洗浄する工程と、含水酸化チタンを濾過し、洗浄する工程の後、含水酸化チタンを焼成する工程により、平均粒子径がレーザー散乱式測定で2~10µmかつ(標準偏差/平均粒子径)が0.3以下のシャープな粒度分布をする球状大粒子二酸化チタンを短時間で簡便に高収率に得ることができるため、低コストでの製造が実現可能である。

ケミカル

塩素臭を防ぐ香料組成物と除菌消臭液

発明の名称	香料組成物、これを利用した除菌消臭液及び除菌消臭方法		
出願人/権利人	山本香料株式会社	発明者	山本 芳邦
出願日	平成29年3月23日	出願番号	2017-057026
公開番号	2018-158998	特許番号	-
法的状態	出願中		

代表図

図面なし

発明の概要

次亜塩素酸由来の塩素臭をマスキングする香料組成物

特徴

従来技術では次亜塩素酸のもつ消臭効果のため香料が分解され、次亜塩素酸自体の除菌消臭能力を十分に発揮できない。本発明の香料組成物はアルコール2～8質量%、香料成分0.1～1.0質量%、水及び必要に応じて配合される助剤からなり、香料成分はシネオールとメントールと含む香料組成物である。この範囲で次亜塩素酸水を大気中へ噴霧したとき、次亜塩素酸の塩素臭が香料により上手くマスキングされ、付けられた香りも使用者に何ら不快感を与えることがない。香料組成物は、漂白剤その他の次亜塩素酸を含む薬剤の塩素臭をマスキングする際にも利用可能である。

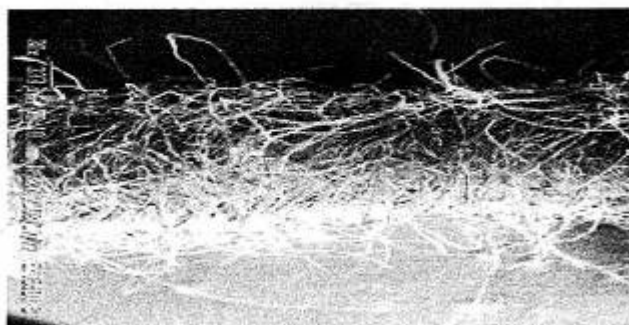
関連分野

飲食、医療・保健衛生

発明の名称	スナゴケ活着させた植生シートとその製法		
出願人/権利人	株式会社明豊建設	発明者	鈴川 一行、佐藤 征也
出願日	平成29年5月29日	出願番号	2017-118122
公開番号	-	特許番号	6403078
法的状態	登録中		

代表図

(A)



植生シートの断面の電顕写真

発明の概要

植生の安定的確保が可能なスナゴケを用いた植生シートとその製法

特徴

従来のスナゴケを用いた緑化事業では、製品の安定的供給及び低価格化、天然資源の枯渇といった諸問題によって市場拡大が困難であった。

本発明の植生シートとその製法は、スナゴケの仮根が成長すると同時に、植生シート上の起毛に仮根が絡みつくことによって、安定な活着が起こり、かつ従来の培土類、糊類及び網類を使用する必要が無く、非常に安価で、成長も促進される植生シートである。既に苔が活着済みであり、切断しやすいニードルパンチカーペットを基盤とした植生シートを用いるため、任意の加工が容易であり「和」の象徴たる苔を海外市場に展開しやすい。